



女の身一つ
三流雑誌社であくせく
働いてきた顛末が
これとは

あ：
あはは：

人生とは兎角
ままならない
ものである

マジかあ：

——三日前

秋山ア 前話した
幽霊屋敷な
次の記事に使うわ

あのヤバいつて
噂のそこすね

今空いてるんで
自分が行って
きますよ

ってうわあ
クソ田舎じゃ
ないっすか：

これ出張費
でるんす
よね…？



お嬢ちゃん
あの屋敷に
行くつもりかい

あそこは
やめときな
崇られるぞ…！



つはア

そうはいかの
金隠しよ

三流記者が
仕事を選び好みして
おまんまが食えるか
ってね！





ご ギ ャ…







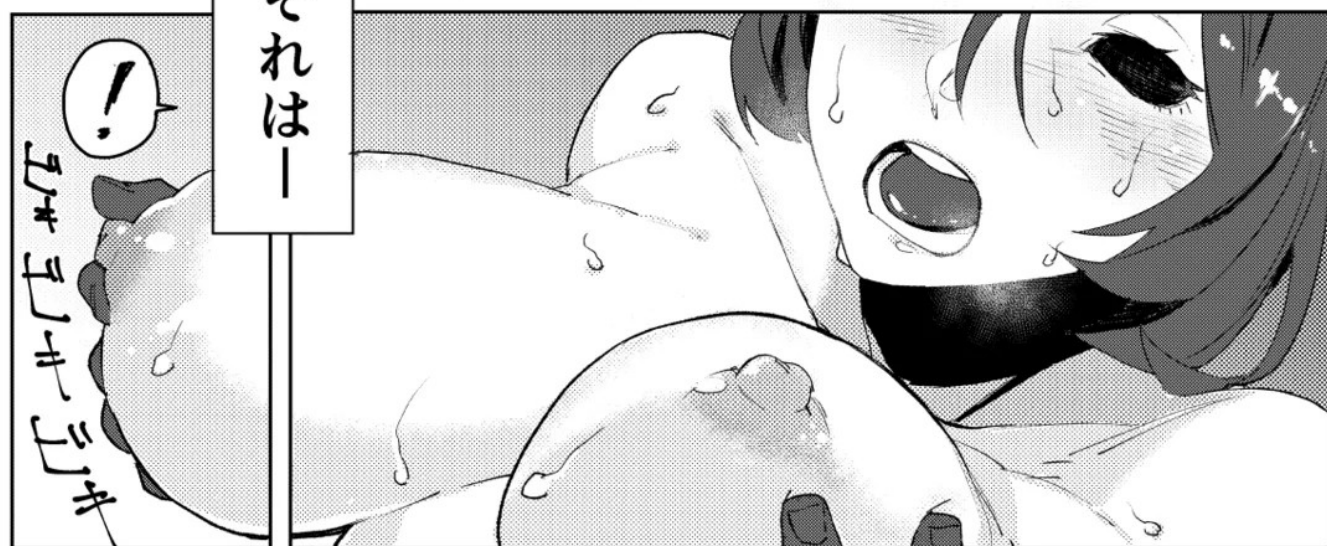
この男
名を御堂
神主の父を持つ
神職家の生まれの
者である



怪異あるところ
御堂あり

数多の
魍魅魍魎と
渡り合う
彼には

それを
可能にする
天賦の
才覚がある



それは――

尋常ならざる
生命力

である











この娘の
生前は可憐な
少女であつた

手酷い裏切り
を受け
失意のうちに
死んだ少女は

愛も恋も知らぬまま
この屋敷で多くの
呪いを振り蒔いてきた



悪霊の

狂気の淵に沈んだ
意識がゆっくりと
浮上してくる



しかし今

この男根を前に
一人の女に
変りつつあつた





股間から脳髄まで
凄まじい
快感が駆け上る

霊体を構成する
素子全てに
御堂の氣が伝わる

すなわち
全身がむき出しの
性感帯となる



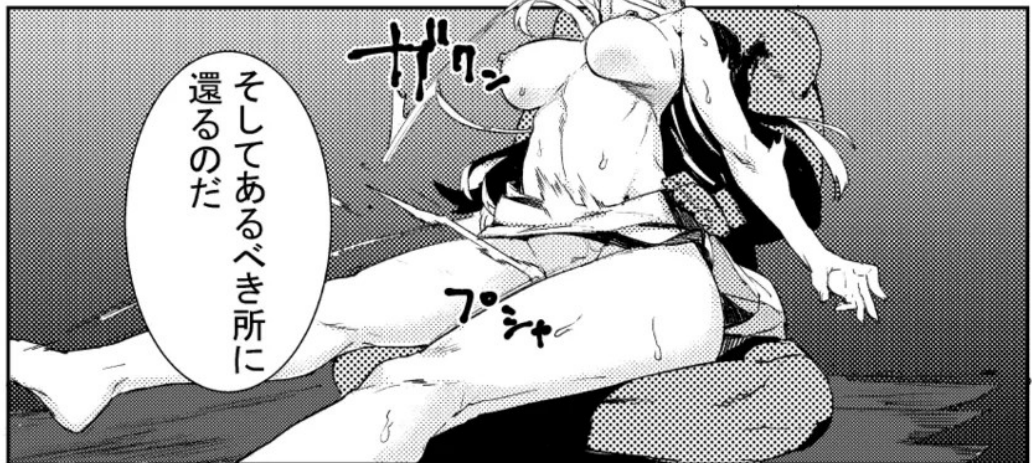
娘は生前
生娘であった



性交はおろか
自慰すら知らな
かった彼女は

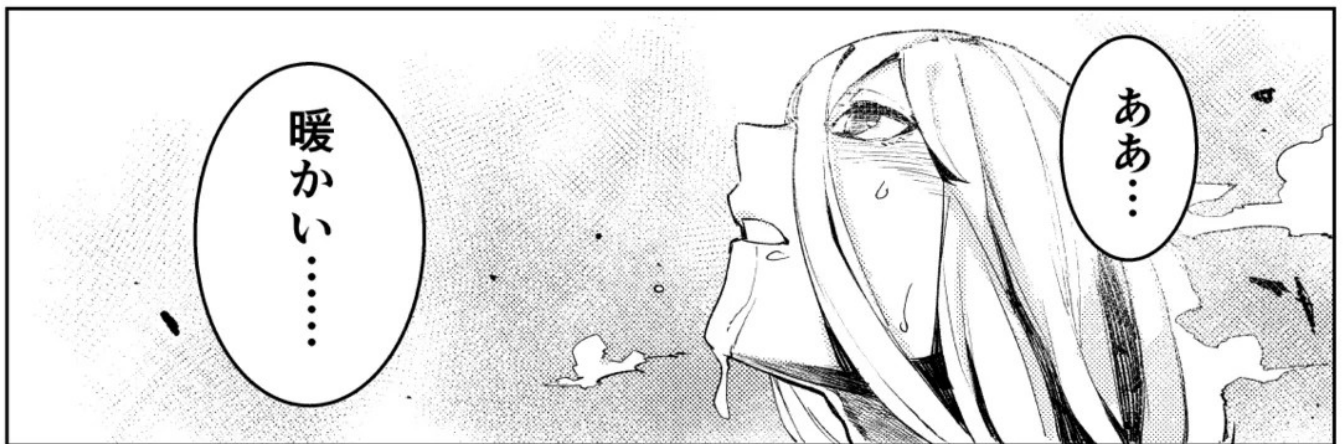


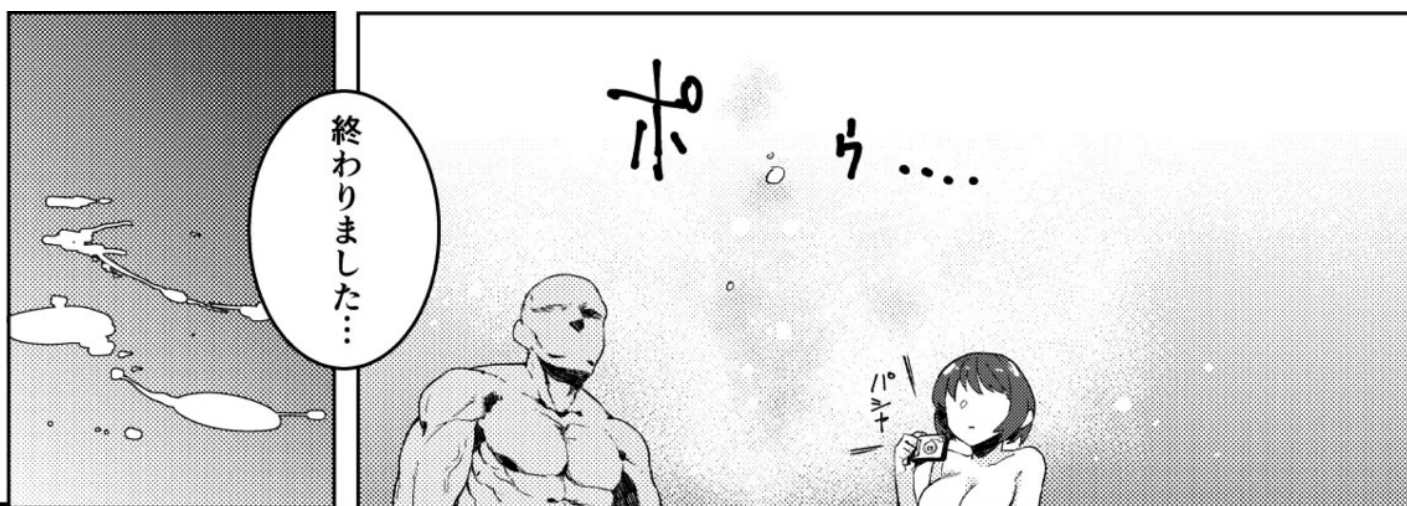
もはや為すがままに
股ぐらからの快感に
吞まれる他なかった











終わりました…

ホー...

パシャ



会社のトイレで
致したりしたが
これはまた別のお話

なんか数日の間
身体が疼いて
仕方なく



その後、御堂と
名乗った男は
すぐに立ち去った

そして
私というと



彼はどこかで
また怪異と
戦っている
のだろうか

あ、そうそう
持ち帰った写真は
見事にボツでした

フック

完.